

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット2階)

事業所番号	2794000253		
法人名	医療法人 神明会		
事業所名	グループホーム ロ・スカーロしばはら・リボン		
所在地	大阪府豊中市柴原町2-7-15		
自己評価作成日	平成29年8月22日	評価結果市町村受理日	平成29年10月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	平成29年9月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者ご本人様が入居前の生活スタイルを出来るだけ崩さず、その人らしい生活を送って頂けるように支援します。地域の行事。市が行っている行事に出来るだけ参加し、地域との関わりを大事に生活を支援していきます。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>経営母体の医療法人神明会については、大阪府北部で各種の介護施設や介護事業所を多数経営されており、当ホームのかかりつけ医でもある。非常勤ではあるが24時間365日対応できる看護師を配置し、利用者や家族に医療面では安心感を与えている。利用者に対しても会議や報告書類では常に「ゲスト様」という文言で統一し、尊厳の心を持つようにしている。地域との交流に関しても、地域行事に参加はするが、それより1階のデイサービスと共同で「いきいき長寿フェア」や「リボン祭り」を開催し、地域住民が親子で来てもらえるような交流を重視している。職員も多忙でつい現場でスピーチロックしがちであるが、傍にいた職員がお互いにアドバイス出来るようなチームワークも育っている。職員の大半は介護福祉士であり、介護のプロ意識をお互いに高めあっていく雰囲気も感じる。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念、行動指針を朝礼時に唱和し、困った時や困難にぶつかった時に共通認識として持つようにし、そのように努力している。 6月に1回の面談で理念共有の状況確認を行っている。また、理念に基づくグループホームの目標を設定している。	経営法人の理念「愛、共感、奉仕」を念頭に置き、ケアの心構えとして、DNA運動に取り組んでいる。即ちD=「できる」という発想。「できない、しない」理由から考えない。N=なんで？どうして？根拠を正しく理解しよう。A=ACTION(行動力)。誰かではなく自分で率先して実現できる行動力。と決め職員一同も理解し、朝礼で唱和している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域より定期的にボランティアの方に来て頂いたり、小学校の合唱団の方に来て頂いたり地域の行事(主に敬老会等)市の行事に参加したりしている。	地域行事でもある敬老会に参加し、ホーム側もいきいき長寿フェアやリボン祭りを催し、地域住民を招待して交流している。地域ボランティアも多数活用している。近くの小学生の合唱団も訪問してくれている。職員数名がキャラバンメイトを受講し、依頼があれば出張研修を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症キャラバンメイトを2名が受講。職員にも行ったが、玄関にポスターも貼り、依頼があれば出向く予定にしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	年6回の運営推進会議を行い。地域の方、市、地域包括等の行政の意見、最近では入居者も参加し、意見を頂き、運営に生かしている。	開催日を奇数月と決め、年6回開催している。行政からは地域包括支援センター、市介護相談員、地域からは民生委員、そして利用者やその家族も参加して意見交換の場となり情報交換も行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議での助言を頂いている。	市高齢施策課とはよく連携をとり、色々な相談事にもってらっている。市主催の事業者連絡会や地域密着部会にも参加し、最近の情報や他事業所の工夫点などを参考にしている。市主催の研修会にも参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者虐待について勉強会を行っており、現在は身体拘束は行っていません。	「身体拘束ゼロ推進マニュアル」を参考にして、毎年職員研修会を開き、現在も身体拘束例は無い。事業所連絡会でもこの話題がよく出るので、他ホームの工夫例も参考にしている。ユニット間や玄関は安全上施錠しているが、閉塞感を与えないよう見守りケアを心がけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待について勉強会を行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年はまだ行っていませんが、人権について勉強会を行い、権利擁護について個々の職員が考える機会を設けています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に、重要事項に説明・契約の締結を事業所に来所又は訪問させて頂き、時間をとって説明しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議はもちろんの事、ご家族様からの意見を聴取し出来るだけ意見を反映されるように努めています。	利用者からは、普段の何気ない会話やリラックスされている時(入浴時、散歩時など)に意向や提案を聞き出している。家族からは、来訪時や運営推進会議で発言されるので参考になっている。リポーン通信を見て電話を頂く例もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長等は年2に2回以上職員との面談の機会を設け、運営に関する意見を聞き、反映に努めている。	施設内で上司や同僚に意見を言い易い雰囲気作りに努めている。毎月のユニット会議や2週間に1度の全体会議でも、各利用者のケアの問題点を議論しつつ、色々な意見や要望を発言してもらっている。キャリアパス制度を採り入れ、半年に1度管理者との個別面談もあり意見を言う機会も設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半年に1回個人面談を行い、個人の能力等を把握している。それに応じた昇給昇格を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内で勉強会を行っており、職員が向上の機会を設けています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	豊中市の事業者連絡会に参加し、交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時等聞き取りを行い、出来るだけ不安な事や要望に耳を傾け落ち着いて過ごして頂けるように関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安や要望を聞き、ご入居後も生活に反映させていくように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要と思われる情報は共有しご本人、ご家族様と話し合いをし必要な支援を担当のケアマネージャと検討し他のサービスが必要な場合はそこにも繋げます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事はして頂き、出来ない事はサポートする事を基本に出来るだけご本人様を主体として生活して頂けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	最近では家族様とのバーベキューや運営推進会議と一緒に参加する機会を設け家族様と本人が過ごせる機会を設けるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一部、家族様の協力や馴染みの関係と手紙のやり取りをしたりしている。(一部の入居者様のみ)	まだ認知度の低い時には、友人・知人がよく訪問してくれていたが、認知度が高くなるにつれ、たまに訪問してくれるだけである。それでも昨年から家族に電話だけでなく、年賀状を出す支援も行っている。それを範囲を広げて友人・知人にも出す支援をするかどうか検討している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の生活を把握し、席順等も考慮し楽しい雰囲気でも過ごして頂けるようにし難しい時はスタッフが間に入り楽しく会話できるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後も電話連絡や必要に応じて訪問しています。また、退所後に計報の連絡を頂いた場合は参列させて頂く等の対応もしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々変化していく御本人の要望や意向を受け止めその都度、臨機応変に対応しています。	入居者の思いや意向を把握するには、本人をよく知る必要があり、そのため自宅は訪問し、人生歴や生活環境、趣味、楽しみごと、嗜好をよく知っておく必要があり、それに沿って現在の意向や思いを聞き出す努力が必要と思える。	フェイスシート等を拝見すると、ケアプランセンターからあるいは病院で紹介されて入居するにしろ、現在の状態(ADL、認知度等)などは紹介されているが、人生歴や生活環境、嗜好、楽しみごとについては殆ど把握されていない。まず自宅を訪問しそれらを把握する努力が期待される。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の状況を把握し、そして過去の暮らしを把握して出来るだけご自身が今までの暮らしを継続できるようにスタッフは努めます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員で一日の過ごし方をアセスメントし夜勤も含め職員全員がトータル的に見えるように努力しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各居室に居室担当を付け、カンファレンスを行い担当者やその他スタッフの意見を聴取、記入してそれに即したケアプランを作成し実行しています。	利用者の変化を把握し、ケアマネージャーや居室担当者を交えて複数の職員がケアカンファレンスに参加し、更に念のため家族やかかりつけ医の意見も参考にして、本人本位のケアプランを立てる工夫をしている。モニタリングは毎月行い、ケアプランの変更性の有無は原則3ヶ月ごとに行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況をスタッフで共有し、必要であればカンファレンスを行いその都度変更を行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診、外泊、外出等家族様の要望に応えられる様に努力しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のお店等を把握し出来るだけそこに繋がるように努めています。(カレー屋、ファミレス等)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医が月2回来られておりそれ以外でも、専門外来に行かれておられる入居者様もおります。	入所時に本人・家族に医療連携等詳しく説明し、大半の方は納得の上経営母体の医療クリニックがかかりつけ医となっている。特殊な科(眼科、皮膚科など)の受診は従来のみである。往診は月2回体調不良のときは、その都度対応で家族よりは喜ばれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様のちょっとした変化も看護師に報告し、状態を確認し支持を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時、入院中は入院先の医療機関の相談員と連絡・・・調整を図り、必要に応じて退院前にカンファレンスに参加し早期退院が出来るように働きかけています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の方針を定め、ご家族様に説明している。また家族様と話し合いを行い方向性を決め転居も含めて話し合いをしている。	看取りは看護師が常駐していない、職場の力量等でまだしない方針である。入所時にホームとして出来る事、出来ない事を十分に説明し理解を得ている。重度化時にはグループのサ高住・病院への転院の方向にて支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時には往診のかかりつけ医と24時間連絡の取れる体制を作り、看護師も急変時には対応できるように体制をとっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っている。設備としてはスプリンクラー、ナースコール、場内放送設備あり。	年2回の夜間想定自主訓練を実地している。又防災マニュアルを作成し1Fのディサービスと共同にて避難訓練をしている。設備もスプリンクラー・ナースコール等整っている。又備蓄もお米・水等されているが、避難訓練に近隣との協力体制の構築については努力をしているが、まだ出来ていない。今後の課題である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に基づきプライバシーを損ねないように努めている。出来るだけ「さん」付けで呼ぶようにしている。	利用者（ホームではゲスト様と呼称）を人生の先輩と考え、尊厳とプライドを損なわないように支援に努めている。2017年支援目標にも接遇の向上と掲げ、綺麗な言葉・動作を心がける様に研修している。又職員間も何かあればお互いに注意し合える体制になっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけご本人様の希望を聞き自己決定できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来ている日出来ない日がありますが、レクに関しては無理強いをしないように、個人の過ごし方を尊重しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来るだけご本人様の希望に沿ったおしゃれを楽しんで頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	味付けを見て頂いたり、食事を分けて頂いたり、食器を拭いて頂いたり個々に出来る事をして頂いています。（内容によっては食事作りを手伝って頂いたりもしている）	食材・メニューは外部業者より配送され職員が調理している。刻み食・ミキサー食・ご飯・みそ汁はホームにて調理し提供されている。食事の前には本日のメニューを利用者が声を出して確認し、職員も同じ食事を楽しく頂いている。外食も月1回ほど出かけている。業者とは2ヶ月毎に給食の内容などの検討会をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後、食事摂取量、水分摂取量を把握し嚥下状態に合わせて刻みやミキサー食の提供等個々に提供方法を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前にうがい、食後に歯磨きを行っています。8割の方が訪問歯科の受診を週1回受けており口腔内のトラブルを回避しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はほとんどの入居者様がトイレやポータブルトイレでの排泄を行っています。状況に応じて布パンツやパットの種類を変えて快適に過ごして頂けるように努力しています。	排泄チェック表より時系列に記録された個々のパターンを把握し、時間少し前にそれとなく廻りに配慮しトイレへと誘導している。又メーカーに来て頂き、排泄介助に関して正しいオムツの使い方の講義を受け、経費の削減を目指している。自立排泄可能者は3割強おられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝に牛乳やヨーグルトを提供しています。便が出にくい方は個別に牛乳を飲んで頂いたり、運動をして頂くようにしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は個浴なので基本的に1対1での対応になります。ご本人様の希望も聞きつつ入浴剤を入れたりしています。	入浴は利用者の体調・希望にあわせて柔軟に対応している。基本は週2～3回で自分のペースで入浴して頂き、職員と1対1の時間を楽しい会話や現在の意向の確認に当てている。季節により柚子湯・菖蒲湯や入浴剤を使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人、個人の体力や持病に合わせて、その日、その日の体調に応じて休憩をとってもらい無理なく日々を過ごして頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報に関しては往診時に変更等あった際は理由と目的を記入し情報を共有しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今まで生活歴から個別にホームでの役割をして頂いている。出来る事と興味のある事を出来るだけ繋げて頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月1回以上は外出レクのイベントを設けている。一部の家族様より個別に外食に連れ出して頂いたり、家に戻ったり、墓参りに行ったりされておられる。	利用者の体調や天候にあわせて出来る限りの外出支援に努めている。外出の目的は歩く事により認知症の進行予防や、日光浴・季節感の味わい等の効果があり、外出を楽しんでいる。遠出はバラ園・百合苑・紅葉狩り・花見等に家族の協力を得ながら行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望に沿って立て替え金による買い物を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様に電話をかけたりかかってきた電話を取り次いだりしている。今年は、年賀状を出させて頂いた。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日、掃除を行い出来るだけスタッフ全員で環境整備に取り組んでいる。絵画やゲスト様の作品を飾りアットホームなフロアーにしている。	リビング兼食堂は明るく・広く・清潔感があり廻りの壁面には自分たちの習字や絵画が飾られ、又イスやソファを置き寛げる空間も、居心地よく過ごせる様に工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ベンチを置いたり、日が入る場所に日向ぼっこ出来る場所を作ったり、イスを至る所におき思い思いに過ごせる場所を提供しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様には出来るだけ愛着のあるもの馴染みの物を持って来て頂き、個室は、ご本人様とご家族様と相談して入れ替えや片付けを行っています。	居室には家庭にて使い慣れた家具・テレビ・お位牌・家族の写真等が持ち込まれ、家庭の延長感のある空間があり、ゆったりと過ごせる工夫がされている。居室の入り口には職員の顔写真付きの名札があり、家族にも好評である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアーには食事のメニューや日付を解る所に記載し掲示している。		